



PRESS RELEASE

海外試験ルートで日本初 ―― 特定技能・大型トラックドライバー

インド人ドライバーが、 日本の物流の未来を切り開き始めた。

海外で特定技能評価試験に合格し来日したドライバーとして **日本初※**、
NAVISグループが育てたインド人材 **3名** が「大型免許」を取得

※海外で自動車運送業分野特定技能1号評価試験に合格し入国したドライバーによる大型自動車第一種運転免許の取得として。公表事例および当社調べによる（2026年8月時点）。

約28万8,000人。 2028年度に見込まれる日本のドライバー不足の推計です。2024年問題で輸送力が細り、外免切替は2025年10月に厳格化。「外国人ドライバー」への期待が高まる一方で、多くの運送事業者様が最後にたどり着くのは、同じひとつの不安ではないでしょうか。

「外国人材が、本当にうちの 大型車両を任せられる戦力になるのか？」

その問いに、インドから来たドライバーたちが答えを出しました。株式会社NAVIS（本社：東京都渋谷区、代表取締役：八島利昌）とNAVIS Human Resources Private Limited（本社：インド・ベンガルール、CEO：鴛渕貴子、以下「NAVIS HR」）がグループ一体で育成・送り出し・支援した特定技能人材でインドでは現役のトラックドライバーだったMasidas（マシダス）氏が、2026年8月、日本で大型自動車第一種運転免許を取得しました。海外で評価試験に合格して来日したドライバーによる大型免許取得は、公表事例において日本初※です。

さらに特筆すべきは、これが一人の例外ではないことです。同時期に来日した仲間のうち、Suman（スマン）氏、Dillip Kumar（ディリップ・クマール）氏を含む合計3名が、そろって大型免許を取得。「最初の一人」が「再現できる仕組み」であることを、同じ月に3名で証明しました。しかも3名は24歳・27歳・29歳と、いずれも20代の若さ。高齢化が進む日本の物流現場に、長く走り続けられる新しい担い手が加わります。

なぜ「日本初」なのか ―― 制度上、最も高い壁だから

壁 1

大型は要件ではない

トラック区分の特定技能の要件は普通免許のみ。大型免許は、制度が求めない「その先」への挑戦です。

壁 2

日本の制度への適合

母国での運転経験を日本の制度に沿って正式に確認するなど、取得の前提を一つひとつ丁寧に整える必要がありました。

壁 3

教習所が見つからない

夏休みで静岡県内はどこも満杯。遠く四国・香川県の高松自動車学校に受け入れてもらい、単身で通学しました。

NAVISの最大の強み——送り出すのは「日本で育てる未経験者」ではなく「母国で実証済みのプロ」

ここで、受入企業様に最もお伝えしたい点があります。彼らは「普通免許で来た未経験者」ではありません。3名はいずれもインドでHMV（大型車両）免許を取得し、母国でトラックを走らせてきた現役のプロドライバーでした。運転の実力は、来日前から折り紙付きだったのです。

これは偶然ではなく、NAVISの選抜方針そのものです。トラック区分では、インドで大型車両の運転経験を持つプロのドライバーだけを選抜して送り出しています。「日本で一から運転を教える」のではなく、「母国で既に大型車を走らせてきた実力者」を選ぶ——だからこそ、受入企業様は**運転技術の不安なく、即戦力として迎えられます**。日本で学び直すのは「言語」と「日本の交通ルール」だけです。

今回も、インドの免許は日本では通用せず、外免切替も待機の列が長く現実的でないため断念。彼らは、母国で既にプロとしてできていたことを、日本のルールと日本語で、普通免許からもう一度証明し直したのです。海外で評価試験に合格して特定技能1号で入国し、来日からわずか約5か月で大型免許まで到達——元プロの実力があったからこそ、この最短距離が実現しました。

実際の行程（3名共通）

2026年3月末

来日

4月

入社

4～5月

普通免許取得（約2か月）

6月

取得前提の確認・調整

7/17～8/13

高松で教習・卒検合格

8/18

大型免許交付

成功のロジック——「インドで育て、日本で支える」一貫通貫の品質管理

なぜこの最も長い階段を、最短で登り切れたのか。答えは、送り出しと受け入れ支援を同一グループが担う品質管理体制にあります。

【インド側】NAVIS HR

選抜と育成

インドで24年の日本語教育実績を基盤に、「選抜が先、言語は後」の哲学で育成。日本の現場で伸びる資質を先に選抜抜き、7.5か月の集中育成（N4～N3水準）を積み上げます。

【日本側】株式会社NAVIS

登録支援機関としての定着支援

来日後は、グループの株式会社NAVISが登録支援機関として、在留手続き・生活支援から免許取得の伴走までを一貫支援。各段階でつまづきやすい点を、インド側の育成情報を共有した上で先回りします。

送り出し機関と登録支援機関が別会社であれば、情報は途切れます。

そしてこの体制には、受入企業様にとってもう一つの大きな利点があります。NAVISは登録支援機関（株式会社NAVIS）を自社グループ内に持っているため、受入企業様は外部の支援機関を間に挟む必要がありません。インドでの選抜・育成から、日本での在留支援・定着まで、すべて一つの窓口と直接やり取りできる——情報伝達のロスも、余計な中間コストもなく、話が早く、責任の所在も明快です。

候補者一人ひとりの強み・課題・学習履歴が、インドの教室から日本の現場までシームレスに引き継がれる——この一貫通貫こそが、送り出し開始（2019年）以来離職率は**ほぼゼロ・配属率100%**という数字を支え、今回の日本初※を可能にした成功のロジックです。

今回の大型免許取得は、本人たちの意欲と、受入企業である**丸両自動車運送株式会社**（静岡県静岡市清水区）および**静岡紙運輸株式会社**（静岡県袋井市）の手厚いサポート、そして各教習所の丁寧なご指導があって実現しました。とりわけMasidas氏の教習をご担当いただいた**高松自動車学校**には、外国人材への丁寧な指導と手厚いサポートを賜りました。厚く御礼申し上げます。



大型トラックの前で——MUNDA MASIDAS氏（丸両自動車運送）



静岡県運転免許センターにて（免許証は個人情報保護のため加工）

「インドの時代」は、もう始まっている

ベトナム・インドネシア・ネパール——これまで日本の外国人ドライバー受け入れの議論は、主に東南アジアを向いてきました。しかし、データは新しい潮流を示しています。

特定技能評価試験（トラック）で、インドは特に高い合格率を記録（2025年2月実施回）	運転免許の学科試験は2024年6月からヒンディー語を含む20言語に対応
CBT海外受験の対象国にインドが含まれ、インド国内で受験→来日する正規ルートが確立	

世界初※3 —— NAVIS、評価試験で受験者全員合格

2025年2月、NAVIS HRのベンガルール研修センターで学んだ**16名の研修生が、日本海事協会の自動車運送業特定技能1号評価試験（トラック）に全員合格**。受験者全員合格は世界初※3、インド初の快挙でした。今回大型免許を取得した3名も、この全員合格を成し遂げた研修センターの卒業生です。

若く、豊富で、運転文化に根ざしたインドの労働力。その可能性を最大限に引き出す鍵が「入口の選抜と、来日後の一貫支援」であることを、私たちは今回の日本初※で実証しました。

言語は後、でも日本語の質は妥協しない —— ネイティブ講師が育てる「話せる日本語」

NAVISの育成哲学は「選抜が先、言語は後」。しかしそれは日本語を軽んじるという意味では決してありません。むしろ逆です。私たちが最も誇るのは、**現場で本当に話せる、質の高い日本語**を育てる力です。試験に合格するためだけの日本語ではなく、受入企業の指示を正確に理解し、同僚と円滑に働き、日報を自ら日本語で書ける——そうした実践的な日本語を、**複数の日本人ネイティブ講師が常駐する体制**で、24年の教育実績のもとに醸成しています。日本語教育を専門とする講師陣がインド現地に根を張っていること——これこそ、他機関が一朝一夕には真似できない当社の基盤です。Masidas氏が教習期間中に日報を日本語で書き続け、修了する頃には漢字で綴れるまでになったのは、その成果の一例です。



インド現地に常駐する日本人ネイティブ講師陣—— NAVIS HR（「NO BOUNDARIES」）



使役形など、N4～N3レベルの文法を日本語で指導—— NAVIS HR研修センター



交通標識など、ドライバーに必要な日本語も指導



「INDIA／JAPAN」の時計の下で学ぶドライバー候補者たち——「最初の3名」に続く力が、インドで育っています

そして現在、インドから日本へドライバーを送り出しているのは、NAVISだけです ※2

インドネシアには既にドライバー専門の送り出し機関が複数設立され、各国の参入競争が始まっています。しかしインドにおいて、**選抜から日本語育成、評価試験合格、来日後の免許取得・定着までを一気通貫で実現し、実際に日本で就労するドライバーを送り出した実績を持つのは、現時点でNAVISグループのみです※2**。これは偶然的の先行ではありません。この水準の人材を集め、研修し、合格させ、日本の現場につなぐことは、以下の資産なしには再現できないと私たちは考えています。

- ① **24年の日本語教育資産と、ネイティブ講師体制。**ドライバーの特定技能は「N4～N3の日本語＋運転免許＋評価試験合格」の三重要件。当社が誇るのは、試験に受かるだけでなく**現場で話せる、質の高い日本語**です。日本人ネイティブ講師の体制で、指示の理解から日報の記述までを日本語で行える力を醸成します。この教育資産は一朝一夕には築けません。
- ② **「選抜が先、言語は後」。**トラック候補は**インドのHMV（大型車両）免許を持つ、現役・経験者のトラックドライバーに限定して採用**。日本で学び直すのは「言語とルール」であって「運転」ではありません。今回の大型免許取得は、この選抜設計の必然の帰結です。
- ③ **「ドライバーとして生きる」人だけを採用。**最優先は「定着」。「**ドライバーの仕事がしたい**」という**明確なコミットメントを持つ人材だけ**を採ります。満期まで働き切ってもらうことが受入企業様の満足に直結する——離職率はほぼゼロはこの哲学の結果です。
- ④ **送り出しと登録支援の一体運営。**同一グループで情報を共有する体制は、来日後の免許取得という最大の関門を突破する上で決定的。今回の日本初※がその証明です。
- ⑤ **数字。**送り出し開始（2019年）以来、離職率はほぼゼロ・配属率100%。品質は主張ではなく、記録です。

今回の3名の後ろにも、同じ体制で育成されたインド人候補者たちが列をなしています。彼らは「最初の3名」であって、「最後の3名」ではありません。インドのドライバー人材への扉は、いま当社を通じてのみ開いています。



NAVIS HRで日本就労を目指すドライバー候補者たち —— 「最初の3名」に続く力が、インドで育っています



高松自動車学校での大型免許合格を報告するMUNDA MASIDAS氏と関係者の皆さま

取得の概要

2026年8月 —— 3名そろって大型自動車第一種運転免許を取得

✓

MUNDA MASIDAS
マシダス 氏・24歳
丸両自動車運送株式会社
8/18 取得

✓

XESS SUMAN
スマン 氏・27歳
静岡紙運輸株式会社（静岡県袋井市）
8/18 取得

✓

PAIKARAY DILLIP KUMAR
ディリップ・クマール 氏・29歳
静岡紙運輸株式会社（静岡県袋井市）
8/20 取得

MUNDA MASIDAS 氏
丸両自動車運送／8月18日取得

XESS SUMAN 氏
静岡紙運輸／8月18日取得

PAIKARAY DILLIP KUMAR 氏
静岡紙運輸／8月20日取得

静岡県警察中部運転免許センターにて —— 大型免許を取得した3名（免許証は個人情報保護のため加工）

氏名（年齢）	受入企業	教習実施	免許取得
MUNDA MASIDAS（マシダス）氏 24歳	丸両自動車運送株式会社 （静岡県静岡市清水区）	高松自動車学校 （香川県・単身赴任）	8/13 卒検合格 8/18 取得
XESS SUMAN（スマン）氏 27歳	静岡紙運輸株式会社 （静岡県袋井市）	静岡県内の教習所	8/18 取得

PAIKARAY DILLIP KUMAR（ディリップ・クマール）氏 29歳	静岡紙運輸株式会社 （静岡県袋井市）	静岡県内の教習所	8/20 取得
---	-----------------------	----------	---------

国籍	インド
在留資格	特定技能1号（自動車運送業分野・トラック）
取得免許	大型自動車第一種運転免許
送り出し・育成	NAVIS Human Resources Private Limited（インド）
登録支援機関	株式会社NAVIS（日本）

※免許取得日は運転免許試験場での交付日です（Masidas氏：2026年8月18日、静岡県運転免許センター交付）。

エピソード——入職地から遠く離れた四国で、単身赴任

Masidas氏が大型免許の教習に臨んだのは、勤務地の静岡から遠く離れた四国・香川県の高松自動車学校でした。約1か月、単身での教習。日本人学生ばかりで外国人は彼一人、毎日のように異なる指導員と実技を重ねる環境です。それでも卒業検定に一発合格を果たしました。

教習の合間には、NAVISの日本語教師のサポートのもとで学習を続け、受入企業宛ての日報を日本語で提出。修了する頃には漢字で書けるまでに上達していました。休日には地域の方々と交流し、慣れない土地にすっかり溶け込んでいたといいます。免許取得と日本語の上達を、同時に進めていたのです。（Suman氏・Dillip氏は静岡県内の教習所で大型免許を取得しました。）



高松自動車学校での卒業を報告するMUNDA MASIDAS氏と教習所の皆さま（香川県）

関係者コメント



MUNDA MASIDAS 氏
大型免許取得者

本人コメント——MUNDA MASIDAS 氏

マシダス・ムンダと申します。普通免許（LMV）と大型免許（HMV）を取得する道のりは大変でしたが、NAVIS HRと丸両自動車運送株式会社がそれを可能にしてくれました。本当にたくさん助けていただきました。

免許取得は簡単ではありませんでした。一番苦労したのは学科試験、特にすべての交通標識とルールを覚えることです。何度も教材を見直し、あきらめずに自分を奮い立たせ続けました。運転も、駐車や実技が初めての経験でとても苦労しましたが、何度も練習を重ね、指導員の方々にたくさん質問し、毎日努力しました。

いま学科・技能の両方の試験に合格することができ、日本で一生懸命働き、安全運転を心がけ、家族のためによりよい未来を築いていきたいと思っています。大型免許を取得できて、今はとても幸せです。ありがとうございました。



受入企業（Masidas氏）

受入企業コメント——丸両自動車運送株式会社（静岡県静岡市清水区）

【評価】出退勤時はしっかりと大きな声であいさつをしています。先輩の帰社時も同様にあいさつをし、声掛けをしています。日本語の勉強にも取り組んでおり、分からない単語があると調べて理解しようとしている姿は、高評価と感じます。

【今後の業務内容】大型車両を運転し、産業廃棄物の運搬を行ってもらうようになります。ウイング車・平ボディー車がメインとなり、200Lドラム缶・1m³フレコン・1m³コンテナ等、様々な荷姿になるので、取り扱い等を指導していきます。

【今後の期待】先輩との同乗時（教育期間）に、客先とのコミュニケーションの取り方を学んでもらい、日本語の会話や書くことをスムーズにできるよう努力してもらい、早くワンマ



高松自動車学校

教習所（Masidas氏）

教習所コメント——高松自動車学校

今回の教習では、日本特有の優先関係や坂道発進など、慣れない交通ルールや運転操作に苦戦する場面もありました。一方で日本語の理解力が高く、指導内容の一つひとつ吸収しながら、比較的スムーズに卒業まで進むことができました。今回の大型免許取得は、何よりもご本人の努力の結果だと感じています。私たちが大切にしているのは、免許取得そのものにとどまらず、外国人ドライバーの入社後の活躍です。日本で安心して長く働き続けられる環境づくりに貢献してまいります。



鷺淵 貴子

NAVIS HR（イン

ド）CEO

NAVIS HR（インド）CEO コメント——鷺淵 貴子

「インド人のドライバー」と聞くと、意外に思われるかもしれません。ホワイトカラーのIT人材を思い浮かべる方、あるいは逆に、街中を過酷な環境で走る運転手を想像される方もいるでしょう。いいえ、どちらも違います。私たちは、そのあたりで運転している人を採用するのではありません。厳しいチェックに合格した研修センターを卒業し、母国でプロとしてトラックを走らせてきた人材だけを選抜しています。

他国の送り出しは「日本に行きたい人」を選びます。NAVISは違います。この仕事に本気でコミットする、熱意ある人材——ドライバー以外に興味のない人材しか選びません。なぜなら、受入企業様の現場では、仕事へのコミットメントこそが定着を生むからです。「日本に行きたい」だけの人は、着いた途端に仕事を変え、定着しません。私たちは、インドから自信を持って人材をご紹介します。

ドライバー不足に、本気で向き合う事業者様へ

2024年問題、迫る2027年の育成就労制度、そして年々細る輸送力——「いつか外国人ドライバーを」と考えているうちに、優秀な人材は先に動いた企業から決まっています。今回の3名も、すでに受入企業様のもとで走り始めています。

「インド人材は実際どうなのか」「うちの車両構成でも成り立つのか」「大型免許の取得まで、期間とコストはどれくらいか」——こうした具体的なお質問にこそ、私たちは"実例"でお答えできます。カタログではなく、実際に日本で大型免許を取り、現場で走っているドライバーの話です。

▶ 今回の3名の実際のタイムライン（3月末来日→8月大型免許取得）と、選抜から定着までの支援体制を、貴社の採用計画に結び付けて具体的にご説明します。
個別相談（オンライン・無料・30分〜）を、株式会社NAVISにて受け付けています。

次のバッチのご相談は先着順です。「まだ検討段階」「まず話を聞くだけ」も大歓迎——貴社の状況をお聞かせいただければ、最適な進め方をその場でお示しします。下記まで、お気軽にお問い合わせください。

NAVISグループについて

NAVISグループは、「インドで育て、日本で支える」一気通貫体制で、ドライバー・介護・技能職人材を特定技能（SSW）・技能実習（TITP）および2027年4月開始予定の育成就労制度の枠組みで日本へ送り出しています。日印回廊の品質保証者としての役割を担っています。

株式会社NAVIS（本社：東京）

役割：登録支援機関として、来日後の在留手続き・生活支援・免許取得伴走・定着支援を一貫して担当

所在地：〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-3-17 オーツービルディング7階

Web：navis.co.jp

代表者：代表取締役 八島利昌

NAVIS Human Resources Private Limited（インド）

役割：インドにおける24年の日本語教育実績を基盤とした人材の選抜・育成・送り出し

所在地：インド・カルナータカ州ベンガルール

代表者：CEO 鷺淵貴子

Web：navishr.com

グループ：NAVISグループ（株式会社NAVIS、NAVIS Human Resources Private Limited、NAVIS GmbH、NAVIS Lanka）

注記

- ※「日本初」の表記は、海外で自動車運送業分野特定技能1号評価試験に合格し入国したドライバーによる大型自動車第一種運転免許の取得として、公表事例および当社調べに基づくものです（2026年8月時点）。
- ※2「NAVISだけ」の表記は、インドから自動車運送業分野の特定技能人材として来日し日本で就労を開始したドライバーの送り出し実績を有する機関として、公表情報および当社調べに基づくものです（2026年8月時点）。
- ドライバー不足推計（約28万8,000人）は国土交通省公表資料に基づきます。インドの評価試験合格率・免許学科試験の多言語対応は公表資料に基づきます。
- 免許証画像等は、関係者の掲載許諾を得た範囲で公開しています。掲載写真の免許証部分は個人情報保護のため加工しています。
- ※3「世界初」の表記は、自動車運送業分野特定技能1号評価試験（トラック）において受験者全員が合格した事例として、当社が2025年3月に公表したもので、公表情報および当社調べに基づきます（2026年8月時点）。